

* 私たちは「地域ぐるみの子育て」をめざす活動を発信します *

子育て・サークル応援グループ

MaMa ぽっけ

私たちが体験した“広島 8.20 豪雨災害”

報告号



<連絡先> 安佐南区社会福祉協議会（通称“社協”）

電話：082-831-5011 FAX：082-831-5013

MaMa ぽっけホームページ（MaMa ぽっけで検索OK！）

<http://mamapokke.cho88.com>

はじめに

2011年3月11日東日本大震災の時に、テレビ映像の“赤ちゃんをおんぶした避難所のお母さんの姿”をみて、当時多くの子育て世代が、被害に遭われていると思ったら、本当にやるせない気持ちになったことが忘れられません。

そして、2014年8月20日広島市8.20豪雨災害を体験し、あの時のやるせない気持ちが脳裏に浮かびました。被災地域に住む同じ母親の一人として「ほっておけない！」そんな気持ちをひとつずつ私たちのできることから、カタチにしてきました。

それは特別な活動ではなく、すべては日常のつながりの延長線上にあるものでした。

私たちは、その記録を“サークル通信”にこれまで掲載してきました。この報告号は、これまでのものをひとつにしたものです。私たちが地域の皆さんと一緒に取り組んできたことのひとつでも、これからの地域づくりの中でお役にたてることがあれば、私たちはうれしいです。

平成29年3月8日

子育て・サークル応援グループ MaMa ぽっけメンバー一同

<通信 51 号(平成 26 年 11 月 20 日発行)より>

I. 2014 年 8 月 20 日

私たちが体験したこと・・・ 私たちが感じたこと・・・

あの日の朝

◆ 衝撃の光景が…、その晩は今までの人生で経験したことのない雷鳴がとどろいていました。いつも爆睡している娘たちも「ちょっと異常よね」と寝付けないうり様子でした。朝、普通に目覚め、普通に朝食やお弁当の準備をしようといつものように TV をつけ…広島市安佐南区上空のアナウンスとともに衝撃の光景が画面に広がっていました。エ～ッ！！急に胸がドキドキして、しばらく何も手につかない、そわそわふわふわした感覚でした。とりあえず朝食やお弁当を作り終え、親戚の住所や学校の名簿などで住所を確認し、大丈夫だろうか…と思いを巡らせました。TV では屋根の上から手を振る人影が…状況を知らせてくれるのも大事だけど今すぐ助けてあげられんのか？ 苦しい思いで画面を見つめました。(大塚在住メンバー)

◆ 1 時間ほど停電しました。懐中電灯どこだっけ？と慌てっていると息子が泣き出しました。その日は夫が帰ってきていたけれど、もし私一人だったらと思うと不安になりました。災害後テレビや友達から被害の様子を聞いた時に、「何かあったら私が子どもを守らなきゃいけない」と感じ、そう思えば思うほど不安が強くなる感じでした。同じマンションや近所に住む友達も同じように不安になっていて、一緒に防災グッズの準備や避難所の事、「避難するときには必ず声をかけあおうね」と話しあうことで少し不安が軽くなりました。(祇園在住メンバー)

◆ 前夜から降り続く雨となりやまない雷に怯えながら眠りにつきました。早朝、ヘリコプターと消防車や救急車のサイレンの音で、ただならぬ予感がした。TV をつけると、いつも見ている景色の悲惨な状態はどうしよう？ 誰か知り合いがいたっけ？ 何ができるだろう？ と考え、携帯電話を片手に Facebook やメールで知り合いに連絡をし始めました。でも、考えるだけで何もできず 1 日が終わりました。

(川内在住メンバー)

◆ 8 月 20 日の日、私は丁度、帰省から帰る 1 日前でした。朝、家族に言われテレビを見て、心臓がドキドキしたのを覚えています。その後は、夫に連絡を取り、友人にもメールをし、でも、テレビからの情報が詳細になるにつれ、愕然としました。次の日、緑井駅からの帰り道、土ほこりで真っ白になった道、そして、梅林・八木地区の山の様子を見た時のショックは忘れられません。夜の雨の怖さを知り、音におびえながら洋服を着て寝る毎日でした。(緑井在住メンバー)

◆ 可部南根の谷川の土手沿いに住んでいます。当日夜中、雨と雷で怖くて子ども達と引っ付いて寝ていました。もちろん寝られるわけでもなく、窓から何度も川が氾濫しないか確認しながら夜中を過ごしました。私の所は、幸い被害はなか

ったのですが、川向こうの景色が土砂崩れで家が崩れて無くなっていたり、根の谷川 300～400m上は反乱して、車も流されていました。朝からヘリコプターの音と、救急車の音をずっと聞いてばかりでした。川の水がひいて来た頃には、何時もの川(木や草だ

らけ)ではなく、砂一色に変わっていました。私の周辺は、被害はなかったものの、TVで災害の酷さを知り何かしたいけどどうしたらいいのかもどかしい気持ちにかられました。

(安佐北区可部南在住メンバー)

そして、私に何ができるのかな？

◆ 私の住む地域では大規模な被害はなかったようで、重苦しい空気はあるもののいつもと変わらない生活が続いていました。一方、グループのメーリングリストには緊急の物資応援の依頼が入ります。自宅にあるものを探して持っていける状態にして揃えます。準備のできないものもありました。ニーズにこたえられない…ってやつですね。また時々刻々と必要なことも変わっていきました。タイミング良く動くことができませんでした。…これが非常時なんだ…じたばたしても仕方ない。家族の介護がある現状ではタイムリーに行動できない、割り切ってこの度は他のメンバーにお願いしよう。これからも何か役に立てることはきっとある。学ぶこともある。自分の思いを整理しながら、同じ思いのメンバーもいるだろうな～とっていました。

◆ 地域がとても大変な状況になっている中、私はどうしたらよいか…。多くのボランティア活動をテレビ等で知るたびに、私も何かしなきゃ！と思うけど現実として子どももいるし難しい…。とても悩みました。

◆ 災害から10日が過ぎた。何ができるか考えるよりまずは行動することを心掛けたいと思った。しかし、実際には何をしていたのかわからない。普段通り生活してしてい

いのだろうか？罪悪感で苦しい。何もしないことが悪いことのような気がした。メンバーの呼びかけで、ニーズに合わせて、自分ができることからはじめた。メンバーの言葉で心に残っているのは、一番苦しいのは被災された方なのだから。友人のご実家の泥かきに参加したが、実際にその場に行くと、五感が感じ取る。テレビで見るとは違う風景、一生忘れないと思う。

◆ 8月20日からもう少しで2ヶ月経ちます。八木地区の職場への通勤風景もだいぶ慌ただしさがなくなり、あえて通らなかつた旧道も今は通らせてもらっています。けれども、当日の緊迫した風景は今も昨日のように思い出せます。まだまだ先は長い復興作業。自分に出来るコトが少ない現実…いや、生活を言い訳にやらないだけ…自問自答しながらもどかしさをずっと実感しています。MaMa ぼっけを通して少しでも関わっていけることで心を落ち着かせている状態です。

◆ MaMa ぼっけやママ友が出来ることで動いてるのを知り、私も出来ることがあればと動きだしました。日頃のネットワークってすごいなと思ったのは、制服が9月から欲しいとの要望に友達が繋がって制

服があつまったりすることでした。また、ママ友と週1程、土砂運びに行かせてもらった時土砂の重さ、そこで暮らしている方たちの大変さに心が痛むばかりでした。まだ大変な方もいらっしゃるので、できる範囲で長くお手伝いをしていきたいと思えます。

◆ 復旧作業に行ったり、MaMa ぼっけで出来る事をやらせてもらっています。今でも、まだまだ復旧には時がかかります。出来る事をやって行きたいと思っています。

◆ 恐怖と不安で眠れなかったあの夜のことは忘れられません。しかしあれほどの災害になるとは…。翌朝からニュースを見るたびに涙が溢れ、ヘリコプターやサイレンの音を聞くたびに心が押しつぶされそうになる毎日。

自分に何かできることはないか考えてみるものの、現地へ足を踏み入れる勇気が持てない。夏休み中の子どもたちとの生活をしっかり守ることで精いっぱい…。重苦しい気持ちで過ごす中、メンバーからの災害支援の呼びかけが。

微力ながら私でもできることがある！と動きだすうちに、気持ちもほんの少し軽くなってきました。ただし、ボランティアやりたいけど無理は禁物。自分や家族もまずは元気でいなきゃ！焦りすぎずマイペースでの支援を考えるきっかけにもなりました。そして、「無事か？」と案じてくれる家族、親戚、友人に感謝。命あることに改めて感謝。いろいろなことを忘れないで、一つ一つできることをがんばろうと思います。

思い続けること

◆ 8・20 以外にも他の地域でも大雨による被害がたくさんあった夏でした。御嶽山の噴火もありました。当然のことながら「報道の量」は減ってきます。忘れられる…感覚はこういうところからくるのかなと思います。大変な思いをされている方々に思いを寄せること、行動をすることを忘れてはならないと同時に、私自身が、自分自身に降りかかることに対して備えることを忘れない、今できることは実行することが大事だと痛感しています。出来るところからやっっていこう…

◆ こういう理不尽な死があるたびに、以前新聞か何かで読んだ文章を思い出します。「あなたがつまらないと思っている今日は、誰かがどうしても生きたかった一日かもしれない。今日はかけがえのない一日だよ」

◆ 今までは日常を普通に送ることを当たり前だと思っていましたが今は日常を普通に送れることがとても幸せなことなんだと実感しています。1日1日を大切に生きていきたいです。

II. 私たちの活動の足跡

これまでのつながりのおかげで、災害という緊急時にも、日常活動の延長線上で、下記のように活動を行うことができました。もちろんパーフェクトではありません。こうして報告させて頂くことが、これからの子育て支援活動や、いつどこで起きるかわからない自然災害時に、活かすことができるといいなと思っています。

8月20日	まずは、メンバーの安否をメーリングリストで確認。同時に近隣での被害状況の情報を収集し、区社協へ報告。
8月21日	ボランティアセンター運営委員会メンバーより、佐東老人いこいの家の入浴サービスで、シャンプー、タオルが足りないと協力依頼。 また、ボランティア連絡会メンバー（梅林地区在住）より、避難所となっている佐東公民館では、紙おむつが足りないと協力依頼。 ボランティア連絡会として、水を通したタオルやそうきんを集めることに。
8月22日	佐東老人いこいの家に集まったシャンプー、タオル、肌の弱い方用のボディソープを届ける。（山本地区子育てサークルさん、毘沙門台学区社協さん、NPO法人e子育てセンターさんも協力してくださる。）また、子育てサークルグリーンキッズさんの協力で、様々なサイズの紙オムツが集まり、佐東公民館へ届ける。
8月23日	災害ボランティアセンター設置準備へ参加。避難所で子ども達があそびスペースを必要としていること、体育館避難所では暑くて過ごしにくいことというニーズ入る。早速メッセージを入れたうちわをメンバーで作成を始める。
8月27日	NPO法人e子育てセンター、安佐南保健センター、MaMa ぼっけ3者で、災害時の子育て支援事業情報共有の場をもつ。あそびスペースづくりを担当することになる。出来上がったメッセージ入りうちわを届ける。
8月28日	ボランティアまつり実行委員会への参加。まつりの取りやめと、このつながりを災害支援活動に活かしていくことを決定。
8月30日	佐東公民館で、公民館職員さんと連携して、あそびスペース支援を行う。（2日間実施）メンバーからの声かけで、被災した地域の中学校の制服集めに協力。
9月4日	定例会を実施。区内子育てサークル活動への影響、必要な支援活動を行えるようアンケートを実施することを決める。また、おもちゃの貸出など、区社協職員に代わって、子育てサークル支援業務を活動として行うこととした。
9月8日	3者連携の活動として、八木小学校でのあそびスペース支援「ほうかご教室」をスタートする。NPO法人これからのまなびネットワーク、広島経済大学興動館子ども達を守ろうプロジェクト等と協力して実施。（1か月間実施）
9月26日	ボランティアまつり実行委員会より、あさみなみ元気づけ隊に移行。賛同参加。また、災害ボランティアセンター運営支援スタッフとしての活動協力スタート（ボランティア参加名簿の入力作業等）
10月22日	佐東公民館で活動している3つの子育てサークルさんと交流会を実施。3つのサークルが休止状態だったので、代わりに活動場所の調整を行う。
10月23日	あさみなみ元気づけ隊支援活動「おそうじ隊」として、メンバー初参加。
11月～	NPO法人e子育てセンターと協力して、佐東地区で臨時のおやくひろばをスタート（2か月間実施）。

Ⅲ. 八木小学校ほうかご教室

災害後、避難所等で聞き取り調査を行った保健センターより、夏休みが終わり小学校開校時における放課後の子ども達の居場所（あそびのスペース）が課題としてあがった。これまでの子育て支援事業での連携を活かし、MaMa ぽっけが中心となり、あそびスペースづくりがスタートした。9年間継続してきた“子育て応援イベント実行委員会”でのつながりを活かし、短い準備時間でスタートできたのは、これまでの活動の大きな成果であったと思います。小学生の我が子をもつメンバー中心で、取り組みました。

<活動期間> 平成26年9月8日（月）～9月30日（火）15時から17時まで。

※15日間実施、利用登録24組。述べ小学生181名が利用。

<活動場所> 広島市立八木小学校 教室、図書室、校庭にて

<運営団体> 広島市立八木小学校、子育て・サークル応援グループ MaMa ぽっけ、NPO 法人これからのまなびネットワーク、RQ 広島（協力：安佐南区PTA 連合会）

<参加学生> 広島経済大学興動館 子ども達を守ろうプロジェクト、広島経済大学興動館東北支援プロジェクト、広島修道大学 西村ゼミ、広島大学、広島女学院大学、安田女子大学ボランティア部

<お楽しみタイム協力団体、グループ>

9月11日 みゅーじっくあむ 松本智恵美さん（レクリエーション）

9月18日 けんだま協会 砂原さん（けんだま教室）

9月25日 どれみママ 廣田さん、山崎さん（コンサート）

メンバーより

「いつもの活動とはちょっと違うので、大丈夫かな？と思いながら参加してみると、子ども達の元気いっぱいの笑顔を見たら不安もどこへやら！一緒に遊んで楽しかったです。安心して過ごすことができる学校で、放課後に宿題を済ませ、大学生たちと思いきり遊んで過ごせるということ・・・その中で、みんなでルールを決めて、折り紙をしたり校庭でドッジボールをしたりと、子どもたちの笑顔がたくさん見ることができて、本当によかったです。このつながりは、大切にしていきたいです

保護者の方より

「いつもありがとうございます。この1ヶ月、たくさんの方たちに支えられ、楽しく充実した日を過ごしたように思います。楽しかったことや、教わったことなどを一生懸命話してくれました。今日で最後ということもあり、息子は寂しい思いがあるようです。勝手な願いですが、これからも何かしらの形で子ども達と関わっていただけたら嬉しい限りです。」
というお声も頂きました。



IV. 佐東公民館 3 サークル交流会

私たちは、9月半ば区内 34 サークルの皆さんに、「豪雨災害以降のサークルの活動状況について」アンケートを実施しました。18 サークルの皆さんから、回答を頂きました。そこで、わかったことは、大きな被害のあった佐東地区佐東公民館で活動している3つの子育てサークルさんが、活動に支障がでてきているということでした。それは、ただ、活動が出来ないということだけではなく、「このままの状況が続き、サークルをやめてしまうメンバーが出たりなど、サークルそのものが消滅したらどうしよう…」というお母さんたちの不安いっぱい声を聞かせてもらうことができました。まず、みんなで集まり、おしゃべりをしたり、あそんだりできる機会を作ろう！と、たくさんの方に協力をして頂き、この交流会を開催することができました。

- <日 時> 平成 26 年 10 月 22 日 (水) 10 時から 13 時まで。
- <場 所> 古市公民館 2 階大集会室にて
- <参加サークル> こぶたランド、ニョロニョロクラブ、タッチケアもみじ (佐東公)
- <開 催 協 力> 古市公民館、安佐南区社会福祉協議会 (開催準備や会場手配の協力、安佐南区ボランティアセンター登録ボランティアさん (子ども達の見守り協力) JA 全農ひろしま「とりたて元気市」(参加者の皆さんの駐車場の提供) 広島ママプラス peace (フルーツアンサンブルコンサートタイムの協力) NPO 法人あいあいネット、ユアーズ庚午店、気仙沼市有限会社マツイ (松井恵美子さま) (お菓子やお絵かき帳、また、気仙沼の美味しいふりかけなどお土産の提供) たくさんの皆さんの温かいお気持ちをいっぱい！ありがとうございました。

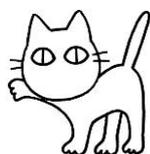


<メンバーからの報告>

ママプラスさんのフルーツ演奏で始まり、大人も子どもも楽しめる曲ばかり子ども達とママと一緒に演奏を聞いたり、歌ったりして、素敵な癒やしの時間を過ごせました。

ハロウィンイベントではニョロニョロクラブさんが事前準備してくださった簡単工作があり子どもたちの仮装もとても可愛かったです！ママたちのおしゃべりタイムのときには、子守りボランティアさんが子どもたちと遊んでくれたので、ママたちはお茶を飲みながらゆっくりお話ができたかな(^ ^)と思います。やはり場所が確保出来ないの、サークル自体が存続の危機と言うおはなしがありました。

当日はあいにくの雨ふりでしたが、18 組の親子さんが参加してください笑顔いっぱいの楽しい交流会でした(^ ^)♪ きっとママたちも気分転換になったと思います。交流会をまたやりたいね！という嬉しい声もありました。また、みんなで子ども達が楽しめる時間を一緒に作りましょうね。



<通信 52 号(平成 27 年 3 月 13 日発行)より>

I. 佐東公民館でのサークル体験会より

手違いで9時スタートで案内してしまった方々(本来10時スタート)数組が9時に来られ、本当にご迷惑をおかけしました<(_ _)> 当日は、ニョロニョロクラブさん(佐東公)、グリーンキッズさん(緑井集)、タッチケアもみじさん(佐東公)も参加、サークルさんによる手遊びや活動の紹介があり、サークルの様子がわかりやすくて良かったです☆参加者は1歳前後の子どもさんが多く、終始和やかな雰囲気でした(^) 災害の影響でメンバーが少なくなり、サークル運営に苦勞した役員のお母さんたちの頑張りに拍手を送りたいです!!これからもみんなの活動を応援していますね。

II. 子育て世代と大学生!

みんなではなそう! これからの減災について

私たちメンバーだけではできないことって、いっぱいあります。この度のこのサロンも、広島で防災への取り組みを行う大学生グループ「HUG-YOU (ハグユー)」のみんな、古市公民館さん、区社協さんとの協力で行うことができました。当日の感想を紹介します。これからも、HUG-YOU のみんなとは、コラボしていきたいね!と楽しみにしています。

<ママたちの声>

- ・学生さん世代の目線での防災の話や、東北の災害地でのお話が聞けて、ためになりました。
- ・参加して話してみないとわからないこともたくさんあり、感じるものが多くあった。防災を普段の生活レベルに下ろして考え、普段生活と結びつけることだと、何かできそう。
- ・ママ向けの防災サイト“みんなの防災部「防たかあさん」”を知ることができてよかった。
- ・防災ピクニックを安佐南区でもやりましょう。
- ・何かあったとき、「あそこで会おうね!」家族で待ち合わせ場所を決めておくことを、夕食のときに話題にしてみます。
- ・避難グッズと子どもを抱えて避難する不安から、最低限の必要な避難グッズについて質問すると、「笛」だと教えてもらえた。乳児、幼児、子どもの年齢に合わせた防災、心得を知りたい。
- ・避難所で生活する時にあったらいいもの…お母さん用のリップとチーク。子どもの不安を軽減するお母さんのためのとっても素敵な情報を得ました。
- ・自分たちのまちのハザードマップに、まず関心をもとう。伝言ダイヤルの使い方を確認しておこう。



<大学生の声>

- ・子どもの身も守らなければいけないお母さん世代の不安やニーズを直接聞ける良い機会だった。お母さんだからこそ気づく点を多く教えて頂くことができた。
- ・命を救うのは日頃から同じ地域間でのつながりだと思いました。(防災の情報に)こう書いてあるからではなく、私だった… この地区だったら… というように考えることが大切。
- ・お母さんたちは、防災ひとつにしても、子どものことをよく考えなければならず、大きな労力を使うので、その手間を少しでも少なくするか?という視点はとても新鮮でした。

Ⅲ. サークルさんで、防災べんきょう会！

「みんなではなそう！これからの減災について」に参加してくれた **グリーンキッズメンバー**さんが、さっそく大学生とつながり、サークルさんで防災べんきょう会を開きました。「前半は大学生より東北支援活動や、防災についての豆知識などのお話、後半は親子で楽しめるワークショップとのことで、**緊急時に活かせるビニールドレスと新聞スリッパ**を



作りました。ドレスには、家族の名前、緊急時の家族の集合避難場所を書き、子ども達が喜ぶイラストを描きました。緊急時にも子ども達の不安が少しでも解消できる工夫について、知ることもできました。」と、感想が届いています。

Ⅳ. あさみなみ元気づけ隊！の活動に参加

おそうじ隊に参加

災害から2ヶ月後、八木のあるお宅におそうじ隊として伺いました。ジュウタンを張り替える前にほこりをきれいにしたいとの要望。3人のボランティアで伺い、天井から床にかけて、台所や玄関のお掃除をしました。娘さんも一緒に、色んなお話しをしながらの作業でした。印象に残っていることは、砂ぼこりは拭いても水で流しても、後から後から片栗粉のように出てくるので、きりがいいこと。一人で掃除をしていたら途方に暮れるし気分がめいってしまっていたけど、お話ししながらだと気持ちが楽になったと話されたことです。お掃除のお手伝いに向うことには、計り知れない意味があるのだと感じた体験でした。

雑巾プロジェクトに参加

ある日、ふと立ち寄った「安佐南区復興連携センター」で目にとまった「雑巾づくりプロジェクト！」の文字。「被災地に出向いて活動するのは難しいけど、何か協力できることがあったら…」と知り合いが漏らしていたの思い出しました。早速数袋預かって、近所のボランティア仲間にお声掛けしたところ、快く引き受けていただきました。わずかな作業ですが心をこめて、思いを寄せて作りました。こういったことでお役にたてること、思いを寄せることが「忘れない」ことにつながると感じています。また「安佐南区復興連携センター」では日々の活動をFacebookにて報告しています。是非、ご覧下さいね。

＜八木小学校ほうかご教室＞

春休み企画

「大学生と一緒にドッジボールをしよう！」報告

当日までの動き

26年9月「災害後、夏休みが終わり小学校再開時における放課後の子ども達の居場所(あそびのスペース)が必要!」というニーズがあり、私たちはほうかご教室を実施しました。その後、このつながりをどう活かしていくか? 関わった団体がそれぞれに考え、「ツリークライミング(廿日市市)」「ツリークライミングと里山あそび(大朝町)」「(広島修道大学学生)」「放課後ボランティアの出張版被災地支援イベント」「八木ふれあいマラソンへの参加」(広島経済大学学生)など、大学生を中心に行ってきました。「春休みにみんなで進級を祝い、交流できるイベント!」という目的で、「大学生と一緒にドッジボール大会をしよう!」を、9月に参加したメンバーに声をかけ、計画を進めました。中心になり企画を進めてくれたのは、子ども達を守ろうプロジェクトのメンバーです。この企画のもうひとつの大きな目的は、大学生と大人スタッフで、ほうかご教室のこれまでの取り組みのふりかえりを行い、メンバーの交流をもつことでした。

- ＜活動日時＞ 平成27年3月30日(月)10時から12時まで
- ＜活動場所＞ 広島市立八木小学校 体育館にて
- ＜主催団体＞ 子育て・サークル応援グループ MaMa ぽっけ
広島経済大学興動館子ども達を守ろうプロジェクト
- ＜協力団体＞ 広島市立八木小学校、安佐南区復興連携センター
NPO 法人これからのまなびネットワーク、RQ 広島
広島修道大学西村ゼミ、NPO 法人e子育てセンター
NPO 法人あいあいねっと、八木の地域の皆さん
- ＜参加学生＞ 広島経済大学興動館 子ども達を守ろうプロジェクト・東北支援プロジェクト、広島修道大学 西村ゼミ、広島大学、広島女学院大学

＜ドッジボール大会の報告＞

参加人数：小学生74名、大学生14名

大人スタッフ3名(MaMa ぽっけ2名、八木ふれあいの会1名)



ドッジボール大会を終えて・・・ ふりかえり&情報交換の会

昼食を食べながら、まずは、9月のほうかご教室の取り組みが紹介された「Bs12Ch 未来への教科書～ For Our Children ～ #83 “被災地に集う力～ 広島土砂災害の現場から～”」（復興支援メディア隊 2014年10月放映）を視聴。ドッジボール大会を終えての感想を発表し合い、その中で見えた新たな課題や、DVDを見て感じた災害支援の取り組みについて、また、それぞれの日頃の活動紹介など、意見交換を行いました。

“地域・子どもたちと・・・”

子どもたちの声に答えたい、保護者も一緒に楽しめるものを企画したい。
幅広い年齢と一緒に係わる活動を大切にしたい。
子どもに係わるボランティア活動を続けたいと思った。

“大学生同士で・・・”

大学生同士のつながりはありそうでない・・・。どんなイベントでもOK！交流しましょう。
次の活動ではほかのメンバーや友人にも広めたい。また自分たちの次の活動に活かしたい。

“災害支援活動、ボランティア、ネットワーク・・・”

社会人である視点になっても、忘れたくない学生の視点。こういった活動に係わり続けたい。
スタッフみんなで情報交換できたことがよかった。
ネットワークのひろがりのすごさを感じた。
災害支援について、大きなテーマの研修にも参加したことがあるが、圧倒されてしまった。
この度は、身近な活動の話題で考えることができたのでよかった。

“MaMa ぽっけメンバーより・・・”

被害のあった小学校のPTA 役員をしている。PTAとしてできる支援活動に仲間や地域の人たちと一緒に取り組んだ。また、支援のつながりは身近な人だけでなく、「あの時、広島の人たちにお世話になったから・・・」と、神戸や東北の人からも届いた。うれしかった。思いはまわりまわって、戻ってくることを、この災害で経験できました。



おわりに

この春休み企画は、そんな思いをカタチにしたひとつの節目となる活動でした。八木地域でボランティア活動を長年取り組んでいらっしゃる萩さんも、当日足を運んでくださった。そして、4月になり、大学生たちは大学を越えて集まり、次のイベントを企画しています。また、先日、萩さんより、災害前までやっていた地域の行事をどう取り戻すか？という貴重なお話も、聞かせて頂きました。新たな課題に向かい、取り組みが継続していく予感もします。これからも、子どもたちの笑顔が、被災された皆さんの復興、まちの活気につながるよう、私たちのできる小さな支援を大切に継続していきたいと思えます。

<通信 54 号(平成 27 年 9 月 2 日発行)より>

I . 8.20 広島土砂災害から一年が経ちました

幼い我が子と体験したあの時の不安な気持ちを忘れないように、私たちのできること小さな活動ですが、仲間とともに継続していきます。一年が経ち今思うことを、メンバーや子育てサークルのお母さんたちが言葉にしてくれました。

家族でしっかり防災について話をする

8月20日に起きた豪雨災害では、見慣れた場所が土砂災害で大きな被害に遭って、とてもショックを受けました。毎日、ニュースが気になり、ずっとテレビをつけていたのを覚えています。たくさんのボランティアの人たちが手伝っているのを見たり、被災された人たちの気持ちを思うと、私にも何かできることは・・・とっていました。

MaMa ぽっけの中でも、”こんなお手伝いがあるけど、誰か行けますか？”とたくさんメールがきました。私はその頃妊娠中でお腹が大きくなっていて、すぐ気持ちが不安定になってしまったので、正直何も出来ないな・・・と思いました。で

も、こんな近くで大変なことが起きているのに何もしていないことに、とても悩みました。ボランティアに参加した友達に、「忘れないことが大切だと思うよ」と言われ、少し気持ちが落ち着きました。

今、自分に出来ることを考えると、子育て真っ最中の私は、日々生活環境が変わっているのに、家族でしっかりと防災について話をしておくこと、見直しておくこと、友達とも情報を交換しながら知識を身に付けておくことかなと思っています。そして、私たちは自然のなかで暮らしている一部だということを忘れずに、日々を感謝しながら生きていきたいです。

(MaMa ぽっけメンバー)

あの日からもう一年、まだ一年

あの日、激しい雷雨の音で一家で眠れない中、ゴゴゴゴという音を聞きました。大きい地震の音に似ていたけど揺れていないし、飛行機が低空飛行をしている時の音にも似ているけどこんな時間に飛んでいるわけでもないし・・・と思いながら、しばらくすると雷雨の音がおさまったので眠りにつきました。大惨事が起こっているとは全く予想していませんでした。

朝、慌ただしい音で目が覚め外に出ると、坂道に山からの雨水が川のように流れ、ところどころに流木が止まっていて、その時初めてただことではないことが起こったということに気づきました。幸い家に被害はなかったのですが、深夜からの停電に加え断水にもなっており、当時4か月の娘のためにも南区の実家へ避難しようとすぐに決めました。

しかし、坂を下り平地にさしかかるとそこは泥だらけで幼子を抱えて歩けるわけもなく、違う筋道を通って下におりようとしても左右ともに土砂や流木、倒壊した家屋によって道はふさがり、自宅周辺は陸の孤島になっていました。情報源は携帯電話のみ、ただ外部との連絡手段もそれしかないのでほとんど使えず、時間がすぎるのを待つことしかできませんでした。

娘は母乳育児だったので私自身が口に何かを入れる必要があったのですが、前日まで一週間家を空けていたので火を通さずに食べられるものが食パンしかなく、心の中で娘にわびながらそれを食べました。結局、実家に避難できたのは15時頃でした（これは私が予測していた時間よりも早く、平地の周辺の人たちが必死になって泥かきをしてくださったおかげです。感謝と手伝えなかった申し訳なさでいっぱいです）。

この災害を経験して実感したことは、いかに自分たちは日ごろ便利な環境のなかで暮らしていたかということです。何か知り

たいことがあればテレビやパソコン・携帯電話を使い、お腹がすけばスーパーやコンビニで食べるものを買う、それが当たり前のことでした。

ただ災害時には、その当たり前のことができません。

そのため何が起こってもいいように準備をしておくことが大切です。でも、その大変だった時の記憶が、普段の生活を送っていると薄くなりつつあります。雨が降ると避難準備や勧告が発令され、最初は不安になり警戒していましたが、最近はまだなくらいにしか感じなくなっていることも、自分のことながら非常に情けなく思っています。だけど、災害はある日突然やってきます。

あの日からもう一年、まだ一年。

この節目の日を迎えたのを機に、災害時に必要なことをしっかり見つめなおし、自分や家族のことをしっかり守れるようにはしたいです。

(元タッチケアもみじ(佐東公)メンバー)

大学生が教えてくれたこと

私たちは、発災当初よりたくさんの地域の大学生と一緒に、災害支援活動を行ってきました。私達だけでは出来ないこと、大学生だけでは出来ないことを一緒に活動することで可能にしたのです。

昨年9月八木小学校ほうかご教室では、広島経済大学興動館子どもたちを守ろうプロジェクトの学生たちと一緒に、一か月間子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを行いました。その後「子ども達とまた会いたい！」そんな思いをカタチしたのが

「春休みドッジボール大会」でした。その後も大学生たちは積極的に八木地区の行事に参加するなど、子どもたちとの交流を継続してくれています。

今年3月「子育て世代と大学生！みんなで話そう！これからの防災について」では、母親大学生グループ「HUG-YOU」のみんなが、東北で学んだことを母親に伝え、そして母親たちは我が子を守らなくてはならないという不安や強い思いを大学生たちへ伝えました。このことをきっかけに、6月には祇園公民館さんも一緒になり「子育て世代向け防災講座」を一緒に企画することができました。

私たちの暮らすまち“安佐南区”で起きたこの大きな災害。まだまだ、災害の爪痕は大きく残り、雨が降るたびにあの晩のことを思い出し不安になります。

亡くなったたくさんのかげがえのない命のことを思うと言葉にできないことも、まだまだあります。でも、災害が私たちに新たなつながりと大切なことを気づかせてくれたことも、確かなのです。

広島経済大学興動館東北支援プロジェクトのTくんは、今の気持ちをこんなふうに伝えてくれました。

僕にとって地域とは、「帰る場所」です。僕にとって大切な場所は、自分の家だけで

はなく、家の周りにある建物、そこで暮らす人々、風景です。子どもの頃、遠くに一人で出かけて、帰り道で家に帰れるかとても不安な時がありました。そんな時、普段見ている風景に戻った時、心が安らぎました。地域とは、みんなの大切な場所であり、帰る場所だと僕は思います。自然災害で帰る場所を失った方々はたくさんいらっしゃいます。その中で、いつもの平和な暮らしを送ることが出来ている僕達ができる事は何か。みんなで考えていく必要があるものだと僕は思います。

II. “なんとなく不安だけど、何もしていない 子育てママのための防災講座”

これまで自然災害による大きな被害がテレビで報道されるたびに「防災グッズを準備しといたほうがいいよね」「もしものときどこに避難すればいいのか知っておいたほうがいいよね」と思いつつも、何も行動せず備えが出来ていない私でした。

そんななか起こった、一年前の広島土砂災害。生まれて三十三年間ずっと広島に住んでいるのに広島県が土砂災害危険箇所全国一位ということを知った驚きと、母親となったいま守るべき小さな愛しい命がそこにあるのに、何も備えをしていないという焦り。もしものとき我が子を抱えて自分が出ることは何なのか、不安でいっぱいになりました。ひとまず防災グッズを準備しておこうかといういろいろ調べてみましたが、何リットルもの水や毛布が必要リストに上がっていたりして、そんな大荷物抱えて我が子と避難するなんて非現実的すぎて参考にならない！と足踏み状態。こんな

に近くで被害があったのに、けっきょく何も変わらない自分にモヤモヤしていました。

そんなとき、「子育て世代向けの防災講座の企画へ参加してみないか」と誘いを受けました。私のように、焦りと不安を抱えているのに前に進めないママがきつといるはず。毎日家事と育児に追われ、防災について考えるきっかけがないママがきつといるはず。そんな思いを込めて、企画に参加しました。



講座では、瓦礫にうもれたときに自分の存在を知らせる笛や電池のいらないライトなど、最低限の防災グッズを巾着袋にひとまとめ。注意すべき点などをみんなで考えながら、祇園公民館周辺の公園へ避難体験もしました。大学生グループ「HUGーYOU」さんが色々考えてくださり、子連れでの防災を一番のポイントにした講座は、ママとしてとても充実した時間となりました。この1回に終わらず、継続して地域全体で防災について考えていくことが、今後の減災に繋がると信じています

(ママさんぞうさん幼稚園メンバー)

6月18日 25日 祇園公民館

子育て世代向け防災講座より

「最小限の防災グッズを作ってみよう！」

①ホイッスル (中に玉が入っているものは濡れると鳴らなくなる恐れがあるので、そうでないタイプがおすすめ)

②携帯用ライト(充電式のものや、LEDライトのものや、ヘッドライト式は両手があくのでお勧め)

③ウエットティッシュ ④油性マジックペン

⑤大中小のビニール袋

⑥軍手 ⑦タオル

※袋はお家で眠っている巾着袋で十分です。

※詳しい利用方法を知りたい人はあそびネタサロンへどうぞ。



<通信 57号(平成 28年 8月 30日発行)より>

I. 8.20 広島土砂災害から二年が経ちました

もう二年、まだ二年・・・忘れてはいけないこと、忘れることで前に進めること・・・同じ安佐南区で暮らしていても、それぞれの立場が違うと思いは全く違います。そんなことがあるって身をもって感じる事ができたのは、身近な地域であの災害を体験した私たちだからこそかもしれません。私たち MaMa ぼっけは、「ママたちの防災知恵袋コーナー」と題して、防災情報、防災グッズ、防災書籍など私たちが学んだことを、様々な活動の中で展示をし、身近な子育て世代の防災について情報交換するきっかけをつくることを大切にしています。二年が経ち、あの時のこと、もう一度ふりかえってみました。そして、私たちはあの日から日頃のつながりをより大切にできるような活動をこころがけています。

地域で育ったこどもたち

災害から1週間が過ぎた頃、避難場所である佐東公民館に“あそび場”を設置するために、MaMa ぼっけとしてどのように動いていこうか?メンバーで試行錯誤していました。看護師さんのボランティアグループ「キャンナス」の代表さんにお会いし、避難者の状況や何が必要かなどを聞かせてもらったり、実際に避難所の親子さんにお

話したりしました。そんな中、日頃から活動でお世話になっていた公民館の職員さんからこんなお話が・・・地元の中学校の生徒さんが“あそびボランティア”として来られ、子どもたちに絵本をよんでくださったそうです。

その生徒さんの中に、サークル出身者がおられたそうです。佐東公民館の子育てサ

ークル「ニョロニョロクラブ」に小さい頃お母さんといっていて、自分はあまり覚えていないけどお母さんから公民館に行ってみたらいいよと言われたそうです。ニョロニョロクラブを仲間とつくり、当時代表をしていた私としては、胸が熱くなりました。私が頭で考えて、避難所へ何を届けたらよいか悩んでいる間に、即行動を起こしてい

る中学生がいる。しかもサークル出身者。地域で子育てし、地域で育った子どもたちが、また地域に優しさを返してくれる。これぞ原点なんだなと思う出来事でした。災害から1週間、出来る人が出来ることをやっていたあの頃の出来事でした。

(川内在住メンバー)

ラジオ体操

私は土砂災害から数日後に、我が子が通う緑井小学校避難所のボランティアに行きました。昼間は、被災した家の掃除や後片付けのため自宅へ帰られる方が沢山おられ、小学校では子どもや年配の方などが避難されていました。子ども達は、ボランティアの学生さん、保育士さん達と託児室で遊んでもらい、その他の方々は各教室で新聞を読んだり、横になって休まれていたりと校内は静かな様子でした。

そんな中、夕方『ラジオ体操をしましょう。皆さん廊下に出て下さい。』と校内放送が流れま

した。出てみると、運動場に面したL字型の廊下に、各教室前に立つ皆さんの様子が見え、離れていても一緒にラジオ体操をしている気持ちになりました。そして私の横で体操をされていた70代くらいの男性が『久しぶりに体を伸ばしてすっきりした。何十年ぶりかのラジオ体操じゃったけど体は覚えとったのう』と笑顔で言われたのがとても印象的でした。運動としてはもちろん、ラジオ体操の良さを改めて感じた避難所でのホッとする一時でした。

(緑井在住メンバー)

物資を集める

あの災害のあと、小さな子どもがいるけど何か役に立つことがあれば、そんな声が私たちのもとにたくさん集まった。「暑くてたまらない避難所にメッセージを親子で書いてうちわを届けよう」「避難物資が届くまでの数日間、いろんなサイズの紙オムツを避難所に届けよう」とっても小さな活動だったけど、みんなで必死だった。何か役に立ちたい！と思う声はとってもすばらしいことだけど、ロコミで思いは広がり、「こんなものも必要なのでは？」と、日頃お世話になっていた祇園西公民館に段ボール20箱以上の支援物資が集まってきた。驚き状況

を確認に行く。ただただ職員さんにあやまったなあ。そんな時、館長さんは「うれしいじゃないか！こんなにたくさんの方の思いがカタチになって・・・」と、すぐに臨時の置き場所を確保してくださる。そして、祇園西公民館で活動している子育てサークルのお母さんたちがすぐに集まり、物資の仕分け作業を一緒にしてくれた。必要などころに必要な物資を届けよう！・・・私たちの活動は、あの時こうして多くの人たちと共に始まったのだった。

(山本在住メンバー)

《 “MaMa ぽっけ” って な～んだ？ 》

子育てサークルの出身の母親を中心に、自分たちの経験を活かして、子育てサークル活動のおもしろさや、子育て仲間のすばらしさを伝えていこう！というボランティアグループです。

《 活動内容の紹介 》

◆ 通信の発行

→ 年に4回、子育てサークルについての情報を発信します。

◆ MaMa ぽっけの あそびネタサロン & 出張あそびネタサロン

→ 簡単で楽しいあそびの紹介、区内子育てサークルの紹介や体験会、サークル運営の相談などを行っています。

◆ おもちゃなどの貸出

→ 大型絵本やエプロンシアター、積み木や布バルーンなど、サークル活動がより楽しくなるように願って、社協さんと一緒に貸出をおこなっています。

◆ 子育てサークル交流会の開催

その他、ボランティアまつりへの参加、あさみなみ子育てしやすいまちづくり委員会への参加など、できる人が、できる時に、できることを、楽しく！活動しています(^_^)/

MaMa ぽっけホームページ（MaMa ぽっけで検索 OK！）

<http://mamapokke.cho88.com>

